

登録コード	L2420100	開講年度	2026				
担当教員	伊藤 尽			副担当			
授業科目	英語学概論						
英文授業名	Introduction to English Philology and Linguistics						
授業タイトル	英語文献学・英語学入門						
単位数	2	対象学生	1年次生	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限
講義室	人文第1講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力			大学入学以前に聞いていた、あるいは知っていると思いこんでいた「英語」という言語について、その本質や研究の前提となる基礎的な考え方を身に付けることで、「英語」という言語とは何か、またその研究の主旨は何かを自ら問い直して検証できるようになる			
	【2022年度以前加付対象】変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力			英語を含めた文献の変遷の歴史を知ること、現在、自分たちの目にするテキストの受容について客観的に存在意義を評価し、普遍的な価値を見定めることができるようになる			
	【2022年度以前加付対象】過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力			過去に記された文献の存在・様式・中身を知ること、現在の状況が永遠普遍のものではないことを対照的に理解し、現在持たれている価値観及びその起源と現在の価値観を比較し、見直し、多様な価値観の在り方を肯定出来るようになる			
	【2022年度以前加付対象】グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力			英語圏のみならず西洋全体の文献の成り立ちを学ぶことで、智の遺産の意義を理解し、外国語による思索が如何に行われるかを踏まえて、異文化を持つ人びとの交流を図ることができるようになる			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
	全学横断特別教育プログラム						
授業の概要	英語文献学入門として、英語研究の基礎から応用までの研究方法の基礎を概観します。文字文献の成立から製作過程を知り、それらをどのように読むか、手法を学び、読んだ際にどのように理解するかを具体的事例とともに実践的に学びます。 具体的な文献は、英語誕生以前の時代から、印欧諸語以外の文献がどのようなものだったかから始め、古英語、中英語などの中世英語文献、それらに関わるラテン語、中世北欧語文献、初期近代英語文献から現在の英語テキストまでを扱います。 文字も、楔形文字に始まり、歴史文献時代のアルファベットやルーン文字まで含みます。 英語のみならず、英語に関連する諸言語も扱うので、受講生は、自分学部の様々な概論授業と関連付けて、授業の内容を理解することが望まれます。						
授業計画	1. オリエンテーション 授業の進め方を伝え、参考文献の紹介をします 2. 書物学初歩 一般的に文献とは何かを学ぶ基礎として、書物（写本）とは何かを学びます 楔形文字文献をはじめとするメソポタミア地域の文献から始まり、数千年の時を超えて、ローマ帝国時代の文献を経て、中世初期まで、書物とは何か、という概念に疑問を呈しながら概観します 3. テキスト批評と校訂本 書物の内容をどのように研究素材として扱うかを学びます。校訂本とは何かを知ることで、具体的にテキストの異同を照合し、校訂本を読む力をつけます テキスト校合過程は、校訂本を作成する際の最も基礎的な研究行程であり、中世や近代初期までの伝統に基づきます。1300年頃の中英語口マンズSir OrfeoとシェイクスピアのThe Merchant of Venice(『ヴェニスの商人』)またはMacbeth(『幕別』)の校訂本をそれぞれモデルとして紹介し、読解演習を行います。 4. ルーン碑文とルーン学1 英語の最も古い文字はルーン文字です。ローマ字が齎されるより以前にどのようにルーン文字が用いられていたか、その初歩の初歩を学びます 5. ルーン碑文とルーン学2 実際にルーン文字を読むことで、文字と音の関係について考察できるようになります 6. 古書体学1 ローマン・アルファベット（ローマ字）が英語に導入され、写本が羊皮紙に書かれるようになる時代について学びます。写本の作成、文字の筆写をどのように行うかを知ることで、現在のアルファベットの成り立ち、音と文字との関係を考察できるようになります。その際、古アイスランド語で書かれた『第一文法書 (The First Grammaticus Treatise)』を参考に、音声と文字に「変換」することを中世ゲルマン語話者によるローマ字受容のプロセスについて考察します。						

授業計画	7 古書体学2 中世の写本に記された英語を読みます。羊皮紙に書かれた文字を読むことで、英語を話し、書く人びとが言葉をどのように記録したかを知り、実践的に言語学的研究の着想ができるようになります 8 年代記1 アングロ・サクソン年代記は、英語で書かれた最も古い年代記ですが、その記述は写本によって異同があります。「テキスト批評」を踏まえて記述の異同を文献学的あるいは言語学的、または文学的・歴史学的な解釈を試みます。また政治的資料としての文献を読解し、歴史的史料の意義を考察することで、言語の意味するものとは何かを批評できるようになります。 9 法律文書の抜粋：(1)『ケント王国のエゼルブルフト王の法』(2)『イネ王の法』；もし余裕があれば(3)『クヌート王の法』 10 宗教的著作1 聖書翻訳？ 翻案？ オリジナル？ ラテン語で書かれたビード尊師 (Venerable Bede)の代表的著作『イギリス民教会史 (Historia Ecclesiastica Gentis Anglorum)』の記述の写本に残された古英語文献の最古の層の一篇が持つ文献学的意味について考えます。あらかじめ与えられたテキストを読み、古英語文献の読解を行い、その意味の理解を深めます。 11 宗教的著作2 中世初期の英語文献は宗教的著作と世俗的文学の境界が曖昧です。中世後期になると、やや境目がはっきりします。前者の代表的な作品として韻文作品としては「叙情詩」にラベリングされてきた『放浪者 (The Wanderer)』、『航海者 (The Seafarer)』のどちらかを読解します。受講生は予め与えられたテキストに目を通してから出席します。 12 韻文と散文：古英語の時代は同じ作品を韻文や散文で記すことがあります。その代表例に『突然の痛みに対して』は韻文の呪文歌です。同様の呪文歌の存在の他に、薬のレシピが散文で記されている証拠から、古英語後期は、口誦伝承のみならず書物による知識の学びや軽症が行われていたことを確認します。 13 古英語期の宗教的著作の代表である『リンディスファーン福音書』(ラテン語・古英語は行間注釈)について学びます。それに基づき、ケルト文献の代表作である『ケルズの書』についても学び、古英語文献は当初、ケルト的文化の流れを汲んでいたことを知ることで、文献の多様性を実感できるようになります 14 『ケルズの書』誕生を描いた映画について学びます。1冊の書物の誕生が、文化的にも文学的にも歴史学的に芸術論的にも高い価値を持つに至る要素が何か、理解できるようになります 15 文献学の応用について学びます。21世紀のカルチャーの中に、14回目で学んだ映画以外にも多くの応用が見られます。中世英語文献学は、死んだ言語の研究ではなく、現在も生きている文化の研究であることを理解できるようになります 最終講義の際に授業アンケートを実施します
成績評価の方法	以下の提出物で評価します 1 リアクションペーパー (20%) 2 期末レポート (80%) 期末レポートは、講義内で扱ったひとつに焦点を当て、その内容について21世紀に学ぶ意義を論じます。リアクションペーパーは講義の内容如何に拘わらず、積極的に自分で講義内容を把握する姿勢が見られるか否かで評価します。
成績評価の基準	1 リアクションペーパーの評価基準は以下のとおり 講義のポイントを理解していれば可 講義のポイントを踏まえた上で疑問点を自分で表明できれば良 講義のポイントを踏まえた上で疑問点から自分の課題を挙げていけば優 講義のポイントを踏まえた上で適切な応用が考察できれば秀 2 期末レポートは、講義内で扱ったひとつに焦点を当て、その内容について21世紀に学ぶ意義を論じます 結論に論理的な整合性が見られれば可 論理的に整合性を持つ結論への議論に多角的な視点を踏まえていけば良 論理的に整合性を持つ結論への議論の前提に先行研究への能動的な理解があれば優 論理的に整合性を持つ結論への議論で様々な先行研究に批評を伴い、発展的議論が達成できれば秀と評価します
事前事後学習の内容	事前にe-Alpsで配付された資料を読み、その課題をこなします。 事後にセルフエヴァリュエーションとリアクションノーツを執筆し、提出します。
履修上の注意	大学の学びとは何かを知らない1年生を対象とする概論受容故、2年次生には言わずもがなの注意を促すことがある。 オリエンテーションには必ず出席し、セルフエヴァリュエーションを格上での注意点を把握すること
質問、相談への対応	基本的に質問はリアクションノーツに記して提出します その他の相談は、メールか、事前のアポイントメントを取った上での口頭もしくはZoomによる面談を行います メールアドレスは人文学部履修案内に記載
教科書	e-Alpsで配付する資料

参考書	参考書：英語文献学に関するまとまった参考書は、日本語には殆どありません。 以下に列挙するのは、授業で取り扱う(予定の)順番での参考文献です。予め目を通すなどして、授業の内容についてのイメージを予め持っていてください。 ・高宮利行著『西洋書物学への扉』岩波新書1963 岩波書店, 2023. ISBN 978-4004319634 ・家入葉子、堀田隆一共著『文献学と英語史研究』開拓社, 2023. ISBN 978-4758914215 ・フロリアン・クルマス著、斎藤伸治訳『文字の言語学：現代文字論入門』大修館書店, 2014. ISBN 978-4469213478 ・ピーター・シリングスバーク著、明星聖子、大久保謙、神崎正英共訳『ゲーテンベルクからグーグルへ 文学テキストのデジタル化と編集文献学』慶應義塾出版会, 2009. ISBN 978-4766416718 ・明星聖子、納富信留共編『テキストとは何か 編集文献学入門』慶應義塾出版会, 2015. ISBN 978-4766422801 ・『書物學』第17巻 (特集 編集文献学への誘い) 勉誠出版, 2019. ISBN 978-4585207177 ・谷口幸男著、小澤実編『ルーン文字研究序説』八坂書房, 2022. ISBN 978-4896943337 ・パトリシア・ラヴェット著、高宮利行監修、安形麻理訳『カリグラフィーのすべて 西洋装飾写本の伝統と美』グラフィック社, 2022. ISBN 978-4766135688 ・クリストファー・デ・ハメル著、加藤磨珠枝監修、立石光子訳『中世の写本ができるまで』白水社, 2021. ISBN 978-4560098455 ・田中久美子著『世界でもっとも美しい装飾写本』エムディエヌコーポレーション, 2019. ・アラン・G・トマス著、小野悦子訳『美しい書物の話 中世の彩飾写本からウィリアム・モリスまで』晶文社, 1997. ISBN 978-4794963109 ・宮下志朗著『書物史のために』晶文社, 2002. ISBN 978-4794965257 ・阪西紀子著『北欧中世史の研究：サガ・戦争・共同体』刀水書房, 2022. ISBN 978-4887084780 ・ベルンハルト・ビショッフ著、佐藤彰一、瀬戸直彦共訳『西洋写本学』岩波書店, 2015. ISBN 978-4000610650 ・八木健治著『羊皮紙のすべて』青土社, 2021. ISBN 978-4791773503 ・クラウディア・プリンカー・フォン・デア・ハイデ著、一條麻美子訳『写本の文化誌 ヨーロッパ中世の文学とメディア』白水社, 2017. ISBN 978-4560095591 ・大沢一雄著『アングロ・サクソン(=古英)法典—法文の言語(古英語、一部ラテン語)の邦訳と注解』朝日出版社, 2010. ISBN 978-4255005317 ・大沢一雄訳『アングロ・サクソン年代記』朝日出版社, 2012. ISBN 978-4255006840 ・バーナード・ミーハン著、鶴岡真弓訳『ケルズの書』創元社, 2002. ISBN 978-4422230184 ・バーナード・ミーハン著、鶴岡真弓訳『ケルズの書 ダブリン大学トリニティ・カレッジ図書館写本』岩波書店, 2015. ISBN 978-4000081733
------------	--